

【修了生からひとこと】

松井 秀徳 君

三重大学教育学部日本語教育コース

コンケン大学教育部日本語教師養成コース

研修期間:2011年2月23日~3月20日



タイから日本に帰ってきて、半年が経ちました。タイのことを思い出すと、タイの広い空と、照りつける日差しや、瑞々しい果物の香りが鮮明に浮かんできます。そして共に過ごしてきた、たくさんの人たちの笑顔も。タイでの経験は、今の私の中でとても大きなものになっています。その記憶から思うことを書きます。

まず、私がこのプログラムに参加した理由からお話しします。一つは日本語教師を目指しているから、です。日本語教育の実践力を身につけ、夢に近づくことができるだろう、と思いました。もう一つは外国の人と関わりたい、という思いからです。特に海外の私と同世代の人が、今何を考えているのか、非常に興味がありました。

そんなこんなで参加したインターンシップですが、内容は研修ではなく、勤務といった感じでした。私は完全初級と上級者の二つのクラスで授業をさせていただきました。全部で20コマ(30時間)です。ほぼ毎日1, 2コマは授業がありました。それも、全て「私一人」に任せられたのです。おかげでまさに実践力がつきました。毎日授業があるため、授業を一つ終えたら、すぐ明日の授業の計画を立て、教材を作り、翌日授業をして…の繰り返しでした。大変でしたが、自分が教えた日本語を生徒たちが習得していくのを一番前で見ることができました。また、初級の生徒に英語で「先生が私たちの最初の日本語教師です」と言われたことは、今でも忘れられません。「教える」ということって、こんなに楽しいんだな、と感じた瞬間でした。

タイの学生とは、授業中は先生と生徒という関係でしたが、授業が終われば友達でした。彼らに連れられて、とっても辛いタイ料理を頑張って食べたり、カラオケでタイ語の曲をわけも分からず歌ったり、泳ぎに行ったり、バイクにヘルメットなしで乗せられたり…。彼らのおかげで毎日が刺激的で

した。そして、友達が友達を呼んで、たくさんの友達ができました。タイにたくさんの素敵な友達がいることは私の自慢です。

今、私は進路も決定し無事に卒業しようとしています、それもこのプログラムがあったからです。帰国してから今まで、重要なたくさんの場面がありましたが、その度、インターンシップはキラッと光りました。人に良い印象を与え、また自分の大きな自信になりました。結果、自分のやりたいことをすることができそうです。

今の私を作ってもらったこのインターンシップには本当に感謝しています。これから参加を検討される方にも、きっと大きな力を与えてくれることでしょう。三重大学とタイの大学との国際インターンシップが今後も続き、たくさんの学生が自分の夢に近づくことができることを祈っています。